



鹿慢性消耗性疾患（CWD）のファクトシートを公表しました ……

日本での発生や、ヒトへ感染することを示す証拠は確認されていません

鹿慢性消耗性疾患（CWD）はシカ科の動物がかかる伝達性海綿状脳症（TSE）※1の一種です。感染した動物は、数年の潜伏期間の後、痩せる、衰弱する、よだれを垂らす等の症状がみられるようになり、3～4カ月で死に至ります。これまで、日本での発生は確認されていません。また、ヒトへ感染することを示す証拠は確認されていません。

一方、諸外国では、米国、カナダ、韓国及びノルウェーの4カ国で発生しています。各国機関の多くは、「疫学的にはCWDがヒトに伝達した証拠はない、またはヒトへの伝達リスクは低い」という見解を示しています。

また、近年、諸外国ではCWDのシカ科動物間での感染拡大が報告されています。これらのことを踏まえ、食品安全委員会ではCWDについて、専門家の審査を受けた科学論文として報告されている知見等を整理し、ファクトシート※2として取りまとめました（下記URL）。その他、農林水産



省では家畜防疫の観点から、CWD発生国からのシカ科動物及びシカ科動物由来畜産物の輸入停止措置を講じています。また、厚生労働省でも関係事業者に対し、CWD発生国からの輸入を行わないよう指導しています。

ジビエ料理が話題になるなど、鹿肉を食べる機会が増えています。日本での発生は確認されていませんが、食品安全委員会では、今後とも、CWDの食品を介したヒトへの感染性に係る知見を収集し、情報提供を行っていきます。

※1 伝達性海綿状脳症（TSE）：異常プリオンたんぱく質（PrP^{Sc}）を原因とするヒトを含む動物の疾病の総称で、牛の牛海綿状脳症（BSE）のほか、ヒトに発病するクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）、クールー、めん羊等に発病するスクレイビー等がある。

※2 ファクトシート：現時点での科学的知見を整理し、広く情報提供することを目的として作成する概要書。



鹿慢性消耗性疾患（CWD）ファクトシート

http://www.fsc.go.jp/factsheets/index.data/factsheets_cwd.pdf

いわゆる「健康食品」との安全な付き合い方 ……

「健康食品」※3を摂るかどうかを判断するとき、是非知っておいていただきたいこと

現在、医薬品のようにカプセルや錠剤の形をしたサプリメント、「健康に良い」と称する成分を添加した飲料や食品等、いわゆる「健康食品」が販売され、誰でも簡単に購入することができます。しかし、こうした「健康食品」については、安全性や有効性が確立しているとはいえない現状があります。思わぬ健康被害を避けるためにも、「健康食品」について科学的な考え方を持つことが大切です。

食品安全委員会では、「健康食品」を摂るかどうかを判断するときを考えるべき基本的な事項を、19のメッセージとして出しています。ポイントとして、たとえば、『錠剤・カプセル・粉末・顆粒の形態のサプリメントは、通常の食品よりも容易に多量を摂ってしまいやすいので注意が必要です。また、誰かにとって良い「健康食品」があなたにとっても良いとは限りません。口コミや体験談、販売広告等の情報を鵜呑みにせず、信頼のできる情報を基に、今の自分にとって、本当に安全なのか、役立つのかをいつも考えることが重要です。』があります。「健康食品」と付き合い際には、ぜひ19のメッセージに目を通してください。



※3 「健康食品」には定まった法律上の定義はなく、ここでは「健康の維持・増進に特別に役立つことをうたって販売されたり、そのような効果を期待して摂られている食品」を「健康食品」としている。



「健康食品」に関する情報

<http://www.fsc.go.jp/osirase/kenkosyokuhin.html>